

こんな場所はありませんか？



AsahiKASEI

コンパクトに保管、災害時の緊急対策から本復旧まで

現場打設大型ブロック積み工法

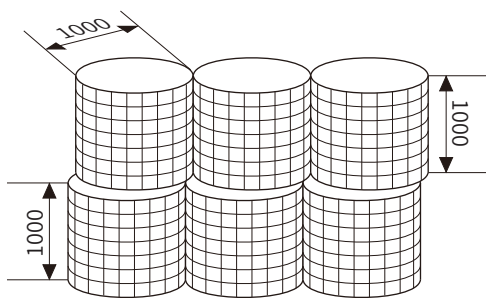
円形コンバック

意匠登録
特許取得

円形コンバックの特長

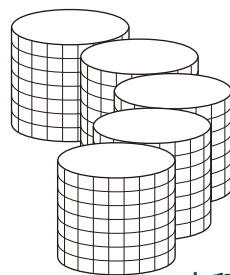
- 円形コンバックは直径φ1m×高さ1m。
護岸や土留め構造物を素早く構築。
- 円形のためR部の施工が容易で特殊型が不要です。
- 充填コンクリートの硬化後は強固な構造体となります。
- 配置の自由度が高く、様々な用途に利用できます。

直線配置



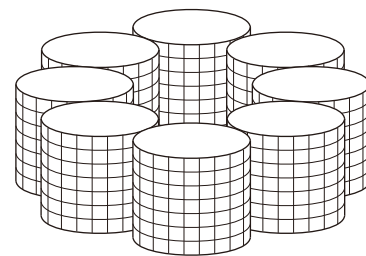
土留め、護岸

R配置



土留め、護岸

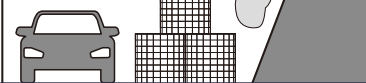
円形配置



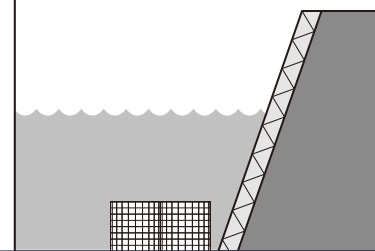
橋脚洗堀対策、他

たとえば
こんな
用途に

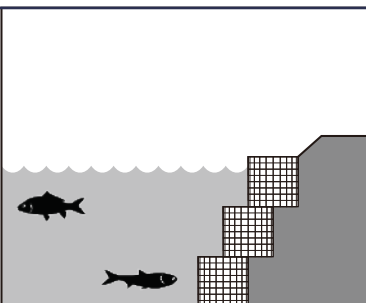
落石・
崩土対策



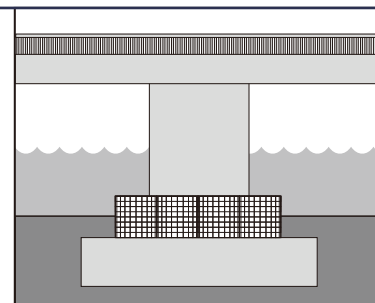
洗堀対策



護岸・
土留



橋脚保護



備蓄資材としても最適

水中施工可能

本設対応



旭化成アドバンス株式会社
ASAHI KASEI ADVANCE CORPORATION

現場打設大型ブロック積み工法 円形コンバック工法とは

円形コンバック工法は、
円筒形の溶接金網に内袋をセットし、
コンクリートを充填する工法です。[※]
部材が軽量なので配置や施工が簡単。
充填されたコンクリートの硬化によって
強固な構造体を形成します。

※状況に応じ、石材の充填も可能です（フンカゴ代替）

施工イメージ

大型土嚢



円形コンバック



円形コンバック工法の特長

従 来

大型土嚢による応急復旧 → 撤去 → 本復旧

円形コンバック

いきなり本復旧

軽量で人力配置が可能



橋下などの狭小地や、
資材運搬困難な林道工事に

水抜きパイプ縫製が可能



水抜きが必要な場合は、
塩ビ管挿入部を縫製出荷

ポンプ車での圧送も可能

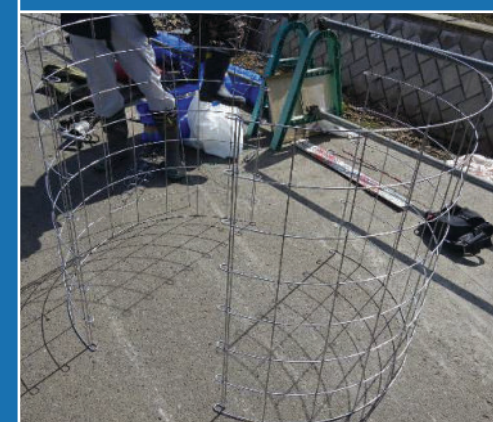


橋下などの狭小地や、
資材運搬困難な林道工事に

現場打設大型ブロック積み工法 円形コンバック組立て方

部材が少なくて軽量、だから組立てが早い！

① 半円どうしを突き合わせ、接続ピンで固定



② 内袋をセットし組立て完了！



部 材 表

部 材 名

仕 様

表 面 処 理

本体パネル

φ4.0×157×143 網目

亜鉛-10%アルミ合金めっき
付着量 300g/m² (Al 10%以上)

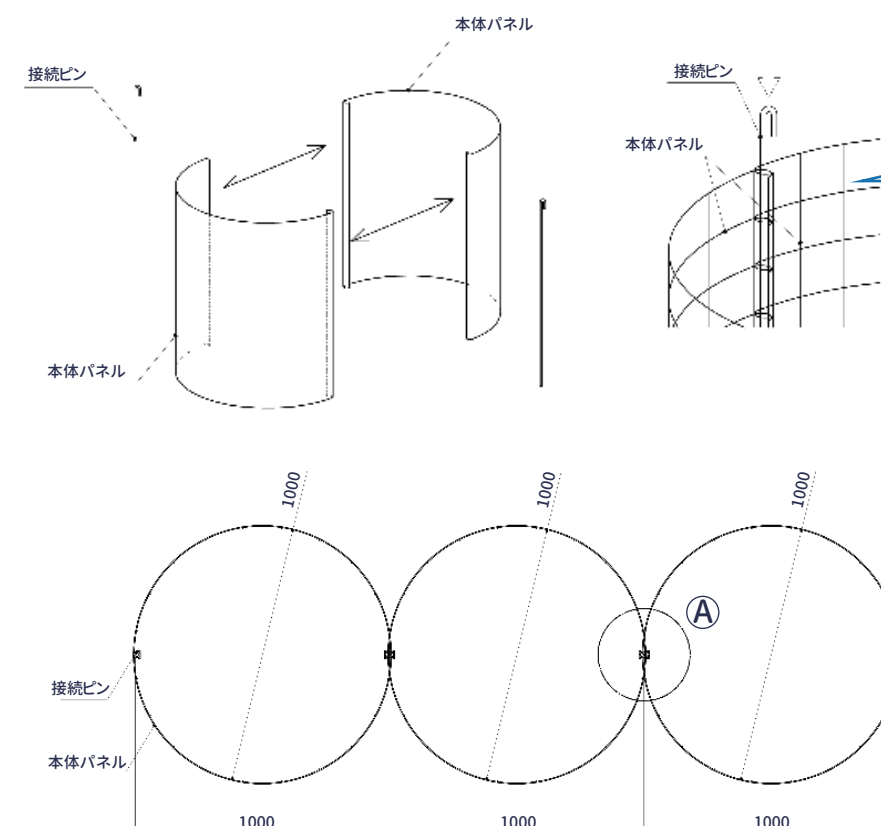
接続ピン

φ5.0

※改良・改善のため製品仕様は予告なく変更する場合がございます

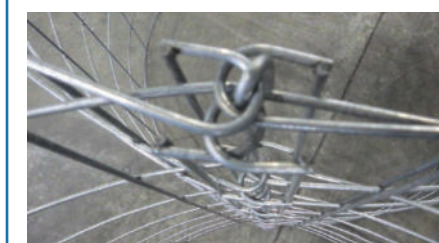
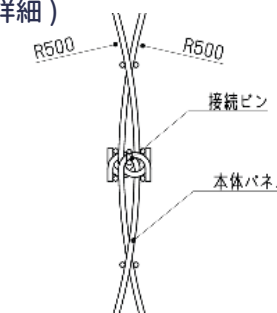
イメージ図

円形コンバックは半円筒形パネル2枚を向かい合わせて
接続ピンで固定するだけのシンプルな構造です



接続ピンを差し込み連結する

(A部詳細)



小岩金網株式会社

ソイルセメント材を活用した 円形コンバック®



ソイルセメント材を利用した円形コンバック®とは

現地の発生土砂によるソイルセメント材を円形コンバック®の中詰材として使用し、もたれ式大型ブロック擁壁として活用、また土砂崩落の修繕工事や豪雨災害の復旧工事などにも利用できます。

ソイルセメント材とは、現地で発生した土砂を有効利用し、現地で土・セメント・水を混合し改良した材料です。

※円形コンバック®は旭化成アドバンス株式会社の商標です。

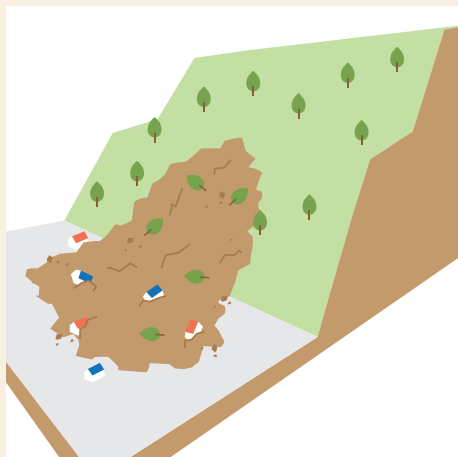


こんなお悩みありませんか？

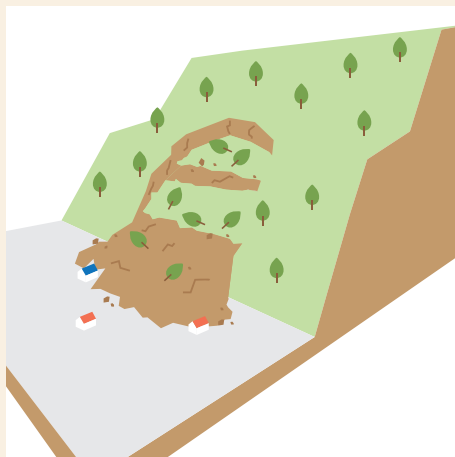
- 発生土を有効活用したい...
- 現場条件に制限がある...
- 環境負荷低減をしたい...

ソイルセメント材を利用した円形コンバック®でお悩み解決!

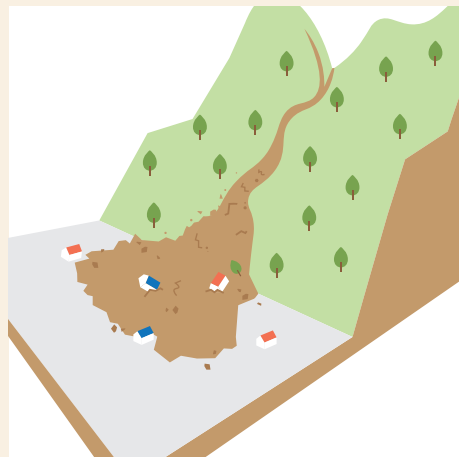
- 運搬・処分が減ることによってCO₂削減
- 狭小な林道にも搬入可能
- 現地の土砂が材料となりコスト削減
- 簡単に組立て・移設が可能のため施工期間が短縮



がけ崩れ災害



地すべり災害



土石流災害

円形コンバック®の特徴



- 橋下などの狭小地や資材運搬が困難な林道や災害現場などにも搬入が可能。
- 金網と内袋のみのシンプルな構造の製品のため軽トラックで搬入可能。
- 現地で簡単に組み立て可能。
- 翌日には移設が可能のため施工期間を短縮。
- 大きさ直径1m×高さ1m。護岸や土留め構造物を素早く構築可能。
- 円形のためR部の施工が容易で特殊型が不要。
- 配置の自由度が高く、様々な用途に利用可能。

ソイルセメントの特徴



- 発生土砂の有効活用により災害復旧などの残土処分を大幅に縮減。
- 搬出土砂の減少、搬入資材の縮減による運搬費・処分費等の縮減(CO2削減)。
- 現地の発生土砂が建設材料となるため、コスト縮減が期待できる。
- 土砂災害発生後に生産された土砂を資材として活用。
- ソイルセメント材の固化後は強固な構造物となる。

ソイルセメント材(砂質土)の製造から円形コンバック®の施工フロー

01 攪拌(配合)枡を設置 現場発生土を投入



02 固化材を投入



03 水を投入



04 バイブ打設



05 円形コンバック®打設状況



06 養生後コア状況



07 ホッパーによる現場打設



08 現場打設と吊施工 平行して施工する状況



09 円形コンバック®の土留め工 施工完了



ソイルセメント材の材料試験、
配合試験、試験施工の品質管理については、**土木管理総合試験所**までご相談ください。
円形コンバック®工法以外にも、**各種擁壁・法面保護・災害復旧工法**を
取り扱っておりますので、お気軽にご相談ください。

お問い合わせはこちら

 **株式会社 土木管理総合試験所** 担当: GEOコンサルタント
〒387-0001 長野県千曲市雨宮2347-3 TEL: 026-293-5677 FAX: 026-293-6431

DK note(事業紹介・サービス情報)はこちら
<https://service.dksiken.co.jp>



AsahiKASEI
旭化成アドバンス

KOIWA
小岩金網株式会社

 **株式会社 土木管理総合試験所**